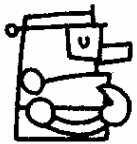


## アンモニア水は、何からできているの



気体のアンモニアを水にとかした<sup>すいようえき</sup>水溶液が、アンモニア水さ。気体がとけてできる水溶液も、たくさんあるのさ。

アンモニアは、色がなく、目や鼻につーんとくるしげきの強いにおいの気体です。とても水にとけやすい気体で、水の体積の約750～1000倍もの体積のアンモニアがとけます。アンモニア水は、アンモニアが水にとけた水溶液です。

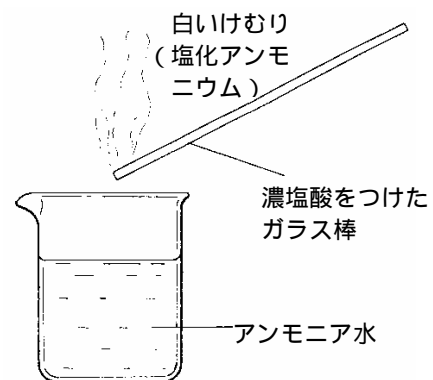
アンモニア水からは、いつも、気体のアンモニアが空気中にとび出しているため、アンモニアのにおいがします。トイレのにおいは、おしっこにとけていたアンモニアのにおいなのです。

アンモニア水は、リトマス紙で調べると赤 青に変化し、アルカリ性の水溶液であることがわかります。ほとんどの金属は、塩酸などの酸性の水溶液にはとけるけれど、アルカリ性の水溶液にはとけません。ところが、アルミニウムだけは、アンモニア水にあわを出してとけます。

### アンモニア水にこい塩酸を近づけると、白いけむりが出る

アンモニア水は、<sup>じょうはつ</sup>蒸発させるとあとに何も残りません。アンモニア水に、塩酸を少しずつ混ぜていくと、あるところで中性になり、アルミニウムを入れてもとけなくなります。この中性になった水溶液を<sup>じょうはつざら</sup>蒸発皿で熱すると、あとに白い粉（塩化アンモニウム）のようなものが残ります。

塩酸も、塩化水素という気体が水にとけた水溶液で、<sup>のうえんさん</sup>濃塩酸を<sup>ぼう</sup>ガラス棒につけてアンモニア水に近づけると、白いけむりが出ます。けむりは、気体のアンモニアと塩化水素が結びついて塩化アンモニウムというものができたのです。



アンモニア水を確認する実験